



### 松山本郷領主島田利正について

萩野 肇

箭弓稲荷神社は、江戸中期享保年間(一七一六〜三六)からにわかに信仰・参詣するものが多くなり、門前には旅籠や茶屋が立ち並び、大変な繁盛となった。

当社のある松山本郷(松山町)は関ヶ原の戦い(一六〇〇)後松山城は廃城となりこの地は幕領となった。寛永十八年(一六四一)にこの地を知行地としたのは上級旗本島田利正(一五七六〜一六四二)です。利正は父島田重次の五男、安土桃山時代から江戸前期の武将、二代目江戸北町奉行(十七年間)、切れ者として評判の人物、主君は徳川秀忠。法名幽也。

### ◆ 島田利正系歴代領主

利正の父島田重次(一五四五〜一六三七)は、清和源氏系流の岐阜の土岐家に生を受け、徳川家の三河時代からの直参で、江戸幕府開府後、入間郡坂戸を所領地として二〇〇石の采地を得た。また一門の菩提所 長溪山「永源寺」(曹洞宗の名刹)を当地に建立した。



永源寺本堂 (坂戸)

重次の兄弟・子・孫等が幕府の重職に列をなした。法名永源。

島田利正は父の所領を相続。寛永一八年には加増分の松山本郷等を知行地にし、合わせて五〇〇石の知行取となった。

松山本郷初代領主利正は領主として短かったが、利正系利木(利正の子)・利宣(利正の孫)等十余代にわたり利正の知行地松山本郷(遺跡)を一七〇年間支配し、文化八年(一八一二)には川越藩領に

なった。この間、松山本郷は繁栄し、箭弓稲荷神社は歴代の旗本の手厚い保護を受けた。なお、名門で権威を示す弾正位に叙されたものは利正・政辰(利木の孫・利正のひ孫)・政弘(政辰の孫)の三人います。詳しくは、永源寺島田家過去帳参照。



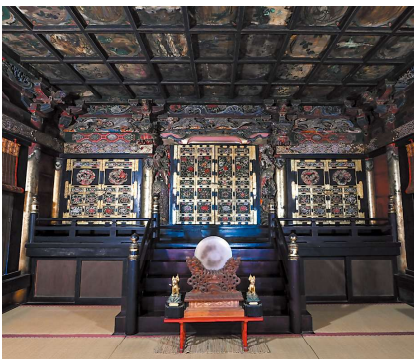
島田氏一門の墓 (永源寺)

### ◆ 箭弓稲荷神社と島田弾正

当社年表によれば、正徳五年(一七一五)〜享保三年(一七二八)にかけて旗本島田弾正は当社に対して「社地を許し多くを免除した」・「信徒と共に社殿再建し本殿の規模を大に」等手厚い保護や社殿造営に尽力したと記されている。島田弾正は、旗本島田政辰(一六六二〜一七二三)と考えられます。政辰は弾正位に叙された人物です。

### ◆ 社殿再建・造営に尽力された人々

箭弓稲荷神社の現本殿は文化元年(一八〇四)に再建。本殿は再建なので、現本殿は約九〇年前の享保初頭に造営された旧社殿(島田弾正・松山本郷時代)の内陣正面扉(極彩色の彫刻)等(彫刻師 初代名工石原吟八義武)を再利用したのではないかと説があります。その史料として、箭弓稲荷神社の現社殿の再建造営時の「社殿付棟札」があります。それには、宮元発願主・大世話人・世話人(有力商人等三二名)の人物が書かれております。これらの人物の先祖の多くは約九〇年前の旧社殿の造営時にも同じように尽力されたと考えられます。すばらしい文化財は、長い歴史の中から人々の英知によって生まれたのだと思います。



箭弓稲荷神社本殿内陣